

P1-060

病気・障がいのある子どもを育てる母親の子育て観オンラインワークショップの実践と評価

松澤 明美¹、吉澤 剛²、眞崎 由香³、鳥本 靖子⁴

¹ 北海道大学大学院保健学研究科

² 関西学院大学イノベーション・システム研究センター、

³ 茨城キリスト教大学看護学部看護学科、

⁴ 浜松医科大学医学部看護学科

【目的】

病気・障がいのある子どもを育てる母親へ実施した子育て観オンラインワークショップを評価することである。

【方法】

ワークショップは子どもの障害種別は問わず、定期的・継続的に保健医療福祉施設を利用する 1～20 歳の子どもを母親を対象とし、自分がどのように子育てしながら暮らしたいかを、他者とともに考えることをねらいとした。そのため、事前に価値観測定の手法である Q 分類法を用いた子育て観のカードワークを個別に実施したうえで、本ワークショップの参加を依頼した。ワークショップの概要はオリエンテーション、自己紹介、Q 分類法による子育て観カードワークの分析結果の共有、グループワーク、グループワークの振り返りである。グループワークはカードワークの分析結果に基づき、類似する子育て観の 3～4 人とファシリテーター 1 人を 1 グループとし、カードワークでどう考えてカードを並べたか、このグループはどこが似ているか、カードのうち自分らしいカードはどれかについて各自意見を述べた。終了後に Web アンケートを実施し、ワークショップの満足度、家族や友人・知人に勧めたいか、参加して子育てや暮らしに関して気づいたことや考えたことの回答を求めた。結果は単純集計して記述し、自由意見のデータは精読し、意味内容で類型化してカテゴリーを作成した。

【倫理的配慮】

研究者所属機関の倫理審査委員会の承認を経て実施した。

【結果】

研究対象者はワークショップ参加者 12 人のうち、本研究参加に同意して終了後のアンケートに答えた 9 人である。母親は 40 代が 5 人、これらの参加者の子どもは平均年齢 10.4 歳であった。本ワークショップの満足度は「満足できた」55.6%、「まあまあ満足できた」44.4%、本ワークショップをご家族や友人・知人に勧めたいかでは「勧めたい」66.7%、「まあまあ勧めたい」33.3%であった。また参加して「子育てする自分の価値観をみつめなおすことができた」「他の人の考えに触れて刺激を受けた」「いい時間を過ごすことができた」「グループワークの運営方法にさらなる工夫が必要」と感じていた。

【考察・結論】子育てする自分にとって大切なことを語り、また他の母親の考えを聴いて多様な価値観に触れることは、自己の価値観をみつめる有意義な機会と考えられた。今後は本手法の効果がより発揮される運営上の工夫、多面的かつ精度の高い効果測定による評価が課題である。

P1-061

新型コロナウイルス感染症前との比較による電話相談の現状

川嶋 泰子¹、熊木 聖子¹、檜垣 君子¹、橋本 玲子¹、及川 郁子^{1,2}

¹ 認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク、

² 東京家政大学

【背景と目的】

日本がコロナ禍となり、当ネットワークの活動はリモート形式の活動を余儀なくされていた。その中で電話相談室の活動は、2020 年 4 月の緊急事態宣言発令後 2 か月間の自粛を得て、通常通りの電話相談活動を継続することができた。過去 3 年間の電話相談の比較から、通常年度とコロナ禍 2 年間の相談件数・相談内容の現状を分析する。

【方法】

2019 年～2021 年の電話相談件数総数、月別相談件数、相談内容を整理し分析した。

【結果】

1. 年度別相談件数について

2019 年度相談件数：327 件、2020 年度相談件数：299 件、2021 年度相談件数：247 件（1 月末日迄）であった。

2. 月別相談件数について

2020 年度電話相談件数は 4 月 5 件、5 月 17 件であり、その内訳ではコロナに関する相談は 3 件であった。いずれにしても、同病者・親の会、病気に関した精神的支援の相談が主体であった。2020 年度月別相談件数の平均は 24.9 件であり、2019 年度を上回り 30 件以上あった月は、6 月、8 月、9 月、11 月の 4 回であった。

3. 相談内容別について

相談内容は 8 つのカテゴリーに分類される。[同病者・親の会][病気に対する相談][遺伝関係][教育(学校・保育園)][経済的][福祉・社会資源][日常生活][精神的ケア] 2019 年度～2021 年度の内容別で多かったカテゴリーの順位に違いはなく、1 位[同病者・親の会]、2 位[精神的ケア]、3 位[病気に関する相談]の順であった。1 位[同病者・親の会]の相談件数総数では、2019 年度と比べ 2020 年度は 26 件少なかった。

【考察】

月別相談件数表を見ると、通常年度と 2020 年（コロナ禍 1 年目）の相談件数には月により相談件数の増加がみられていたことがわかった。2021 年（コロナ禍 2 年目）の相談件数が少なかったことの原因は明らかでない。相談内容別カテゴリーで最も多い[同病者・親の会]に関する相談では、子どもの病気に対する確定診断がつき「子育てに関する不安」や「日常生活の情報を得たい」という相談が寄せられ、同病者・親の会とつながりたいという希望が多かった。2020 年度 12 月における専門職からの相談の 88.9%は同病者に関する情報提供であったことから、コロナ禍において積極的交流が自粛されている中で同病者とのつながりを求めている現状が明らかになった。